

地域の宝を観光商品として磨きあげます

# next 庄原さとやま博

商工観光課観光振興係 ☎0824-73-1179

平成22年10月～平成23年11月まで開催された庄原さとやま博は、さとやまの強みを生かした体験メニュー開発のほか、里山文化、自然、暮らしなどに改めて着目、その魅力を再発見するきっかけとなりました。

庄原市観光協会は、これら再発見した地域の宝(宝石)をさらに磨き、一つ一つなげて個性豊かな宝石のネックレスにすることで、観光商品としてさらに魅力をアップさせブランド化する観光プロジェクトとして「next庄原さとやま博」を掲げて取り組みを進めています。

魅力と伝承の重要性を広く発信する「古式の農事」をテーマにしたPRキャンペーンを展開しています。

5月27日には、比和町森脇で「比和牛供養田植」が開催されます。地域で大切に受け継がれるこの伝統行事を盛り上げようと、6月16日にはヒゴタの会と三河内地域自治会が中心となり、連携イベントとして「絶滅危惧種ヒゴタイを守るめぶき交流会とカンナ残丘の景観を楽しむ三河内ウォーキング」を開催。そのほかにも、地域の人が講師となって実施する「十割そば打ち体験」や「吾妻山で植物(細密画)を描こう」などの体験メニューも予定しています。

4年に1度の伝統行事「比和牛供養田植」

## 神秘比婆 美しき原風景を訪ねて 斎庭ルートイベント第1弾!

少子高齢化の進む本市では、従来型の大型イベントを実施することが今後ますます難しくなると予想されており、庄原市観光協会では主催者がより少ない予算と負担で魅力的なイベントを展開する一つの方法として、地域の人や団体が一つのテーマのもとに集まりそれぞれの強みを生かすことで、



郷土の魅力を多角的に掘り下げ、発信するイベント形態を提案しています。

問い合わせ

庄原市観光協会

☎0824-73-10175



比和牛供養田植

### インタビュー



比和牛供養田植  
比和町郷土芸能振興会  
会長 若林隆志さん

昔から牛は田畑を耕すために使われ、フンは堆肥として利用される農家にとつてなくてはならない大変有益な家畜でした。その牛に感謝し、供養するため牛供養田植を行うようになったようです。

比和での牛供養田植は約700年前、伯耆の大山神社の社人を迎えて太鼓踊りの技法を伝えたのが始まりとされており、時代の移り変わりとともに身にまとう衣装は変わっても、太鼓打ちの技法がそのまま伝えられているのが特色とされています。

特に、太鼓打ちでは、バイ(バチ)を大きく投げ上げたり、腰ひもに付けた太鼓を大きく体をくねらせ左右から打ったり、後ろに反り笠で水をすくうという妙技などがあります。

昭和46年には広島県無形民俗文化財に指定されており、今後も比和の宝として永く伝承していきたいと思っています。